

公式行事の忘年会は「原則強制参加」が約3割
うち4分の1は参加者が費用を全額負担

～ビジネスパーソンの年末事情に関するアンケート～

- 「忘年会は原則強制参加」は約3割。ここ3年ほどの間に忘年会を取りやめたところは2割弱
- 全体の6割が「職場の人に年賀状を送る」と回答。送る年賀状の数は「20通未満」が多い
- 勤務先で「大掃除を行っている」人は75%。大掃除にかかる時間は「半日未満」が主流

【調査概要】

調査名 ビジネスパーソンの年末事情に関するアンケート

調査主体 労務行政研究所 ジンジュール編集部調べ

調査期間 2011年11月25～28日

調査方法 インターネットリサーチ

調査対象 全国の20～59歳のビジネスパーソン425人(正社員のほか契約社員、派遣社員を含む)

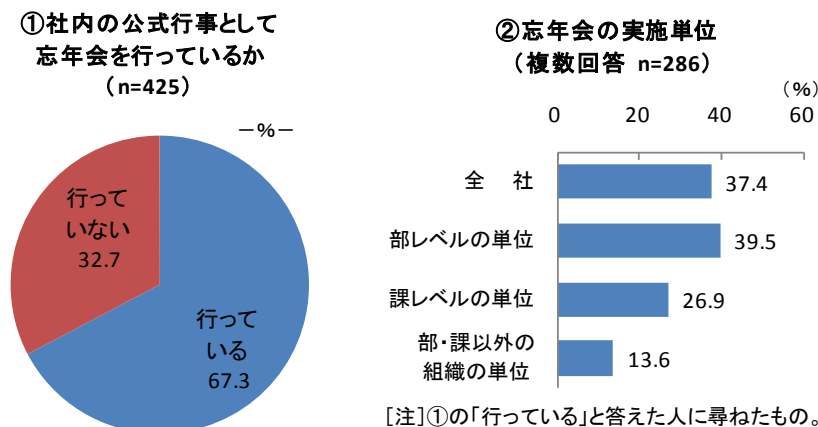
1. 参加は強制？ それとも任意？ 費用はどれくらいまでが参加者の自腹？ ～忘年会の実施状況

1-1 3分の2が「公式行事」として忘年会を実施 ～忘年会の実施状況 [図表1]

民間調査機関の(財)労務行政研究所(理事長:矢田敏雄、東京都港区東麻布1-4-2)ジンジュール編集部では、このほど「ビジネスパーソンの年末事情に関するアンケート」を実施し、現代のビジネスパーソンにとって忘年会、年賀状、年末のボーナス、大掃除をめぐる状況はどのようになっているのかを調査した。

まず、ビジネスパーソンに、「勤務先で、社内の公式行事として忘年会を行っているか」を聞いたところ、「行っている」と答えた人は67.3%でほぼ3分の2の割合。このうち、忘年会を「職場のどのような単位で行っているか」(複数回答・公式行事以外の忘年会は除く)については、「部レベルの単位」が39.5%で最も多く、次いで「全社」が37.4%、「課レベルの単位」が26.9%の順となっている[図表1]。

【図表1】「社内の公式行事」としての忘年会の実施状況



[注]①の「行っている」と答えた人に尋ねたもの。公式行事以外の忘年会は除く。

1-2 「忘年会文化」は本当に衰退しているのか？ ～忘年会の「取りやめ」状況 [図表 2]

景気はなお停滞気味で、明るい忘年会気分は盛り上がりにくい。若手の間では「飲みニケーション」を敬遠する雰囲気も。そんな中で忘年会を取りやめたところはあるのだろうか。ここ3年ほどの間、つまりリーマンショック以降に忘年会を取りやめたか否かについて尋ねてみた。

結果は[図表 2]にみるように、「行われなくなった忘年会はない」が40.2%で最も多い一方、「全く行われなくなった」(9.6%)と「行われなくなったものもある」(7.3%)とを合わせた全体の2割弱が“公式行事としての忘年会が取りやめになった”と答えている。これを[図表 1]で尋ねた「公式行事としての忘年会の(現在の)実施状況」とクロスしてみると、「公式行事としての忘年会を行っていない」と答えた人のうち29.5%が「ここ3年ほどの間に行われなくなった」と答えていることが分かる。

忘年会が取りやめになった理由については、「業績が悪化したため、または予算削減のため」「参加者が減った、または『参加したくない』という人が増えたため」という声が多かった。

【図表 2】ここ最近(3年以内くらい)の間に忘年会が行われなくなったことはあるか

-(社)、%-

区 分	合 計	<内 訳>	
		①行っている	②行っていない
合 計	(425) 100.0	(286) 100.0	(139) 100.0
全く行われなくなった	9.6		29.5
行われなくなったものもある	7.3	10.8	
年ごとの事情で行われる	19.5	29.0	
行われなくなった忘年会はない	40.2	59.8	
以前から全く行っていない	20.5		62.6
その他	2.8	0.3	7.9

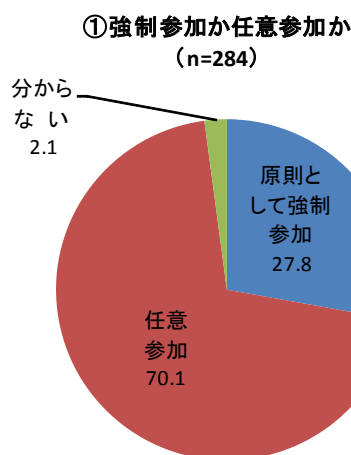
[注] <内訳>は[図表 1]でみた、「現在社内行事として忘年会を行っているか」の回答別の割合を示したもの。

1-3 「忘年会は原則強制参加」は3割弱 当然費用は会社が負担…? [図表 3]

勤務先の公式行事として行う忘年会について、強制参加か任意参加かを聞いたところ[図表 3-①]、「原則として強制参加」は27.8%にとどまり、大半が「任意参加」としていることが分かった。

一方、忘年会の費用負担については、「全額参加者が負担」(45.4%)が最も多く、「全額会社(部署)負担」は26.8%となった。なお、「任意参加」である場合は、「全額会社(部署)負担」は2割弱にとどまり、半数強が「全額参加者が負担」となっている。

【図表 3】会社行事として行う忘年会の参加と費用負担



②忘年会の費用負担

-(人)、%-

区 分	合 計	原則として強制参加	任意参加	分からない
全 体	(284) 100.0	(79) 100.0	(199) 100.0	(6) 100.0
全額会社(部署)負担	26.8	46.8	18.6	16.7
一部会社負担	28.2	26.6	28.6	33.3
全額参加者が負担	45.4	26.6	52.8	50.0

[注] ①②とも「無回答」を除いた割合。なお、会社行事の忘年会が複数回行われる場合は、「いちばん参加人数が多いもの」について答えていただいた。

とはいえ、[図表 3-②]に見るように、忘年会が「原則として強制参加」と回答した人のうち26.6%、約4分の1は費用を「全額参加者が負担」するとのこと。ちなみに、併せて尋ねた“参加者が費用負担する場合の1人当たり参加費”の金額は、「4000～5000円未満」の回答が最も多かった。その中で数は少ないものの、「原則として強制参加」である上に、参加費も「8000円台」「9000円台」「1万円以上」が徴収されるというフコロの寒い忘年会も一部に見られた。

1-4 忘年会はやはり「1年の恥のかき捨て」の場？ 忘年会の面白エピソードあれこれ

勤務先の忘年会でのユニークなエピソード・経験を自由記入で挙げてもらったところ、数多くの回答をいただいた。

特に多かったのは、印象に残ったユニーク企画の数々。「ビンゴ大会」や「プレゼント交換会」といった定番の余興はもちろんのこと、「役員がいきなりマリリンモンローに」「まじめな人がかなりまじめにマイケル・ジャクソンに」といった意外すぎるモノマネ、「AKB48のダンスがウケすぎて4回も踊らされた」などのエピソードも。中には「You tube等でダンスの映像が簡単にダウンロードできるようになったため、社員の余興の質が異常に向上している」という、冷静な分析もあった。

また、酒席ならではの失敗エピソードも数多い。「飲みすぎてトイレにこもってしまった」「一人で飲みすぎてつぶれてしまった」というくらいの軽度の段階から、「階段から回転して転げ落ちた」「ふすまに大穴を空け、以後出入り禁止となった」「酔っぱらって女性の上司を口説いた(次の日とても気まずかった)」「毎回部長が脱ぎ出す」「裸祭りとなる」まで、社会人の常識と良識を逸脱する例も。さらには、「駅まで送ってもらったものの、その後意識不明となり、翌日、両足骨折および腰の複雑骨折で長期入院となった。酒の恐ろしさを知っておく必要がある」という痛切なエピソードも見られた。

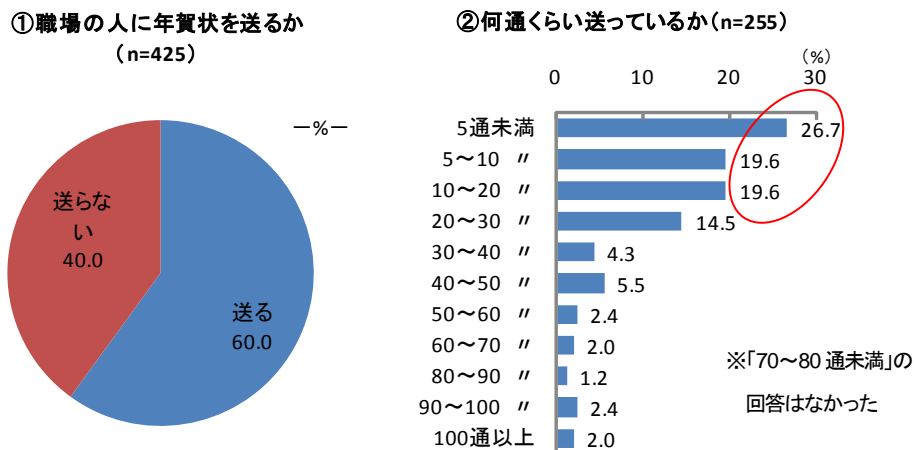
2. 会社の人に出す？ 相手は選ぶ？ ～年賀状の送付状況

2-1 会社の人への年賀状はかなり“厳選”？ そもそも出す割合は… [図表 4]

師走も半ばに入り、気になるのが年賀状の準備。ビジネスパーソン 425 人に、職場の人へ年賀状を送るかどうかを聞いたところ、「送る」人が 60%、「送らない」人が 40%という回答だった[図表 4-①]。

「年賀状を送る」と答えた人に、職場の人たちへ合計で何通くらい送るかを尋ねた結果、最も多かったのが、「5通未満」の 26.7%。これに、「5～10 通未満」「10～20 通未満」がそれぞれ 19.6%で続いている[図表 4-②]。これらを合わせて「送る枚数は 20 通未満」という人が全体の 3分の2を占めていることが分かる。

【図表 4】 職場の人にとどのくらい年賀状を送るか



2-2 年賀状を送るのは上司よりも同僚？ 職場での関係別に見た年賀状を送る相手 [図表 5]

先に見たとおり、「勤務先の人」に送る年賀状は 20 通未満という人がほぼ 3分の2を占め、当然、会社の全員に送っているわけではなさそうだ。では、その年賀状は「誰に」送っているのだろう？ 実際に送る相手を「上司」「先輩」「同僚」「部下・後輩」に分けて、複数回答で答えてもらった[図表 5]。

結果を見ると、上司・先輩を優先するビジネスパーソンが多いかと思いきや、送る相手として一番多かったのが「同僚」(85.1%)で、「上司」(72.2%)を約 13 ポイント、「先輩」を約 10 ポイント上回っている。

【図表 5】 職場での関係別に見た、年賀状を送る相手 (n=255)

区分	-%-		
	送る	送らない	無回答
上司	72.2	25.5	2.4
先輩	74.9	23.1	2.0
同僚	85.1	14.1	0.8
部下・後輩	71.4	25.5	3.1

2-3 どれくらい手間を掛けている？ 年賀状の作成方法[図表 6]

ところで、職場の人に年賀状を送る場合、送る相手によって手間の掛け具合も違ってくるのだろうか。手書きするか、印刷するか、あるいはメールかを尋ねた結果は[図表 6]のようになった。「宛名は印刷しあいさつのみ手書き」がどの送り先でも 4 割台で最も多く、「メールによるデジタル年賀状」は「同僚」(13.8%)を除けばいずれも 1 割未満で少数派といえそうだ。

送り先による作成方法の違いはさほど見られないが、「上司」に関しては、「宛名もあいさつもすべて手書き」「宛名もあいさつも印刷し、手書きはしない」の割合が、いずれも他の送り先よりやや高くなっている。あるいは“手書きで心を込めたい上司”とそうでない上司との違いがここに浮かび上がっているのかもしれない。

[図表 6] 送り先別に見た年賀状の作成方法(複数回答)

—(人)、%—

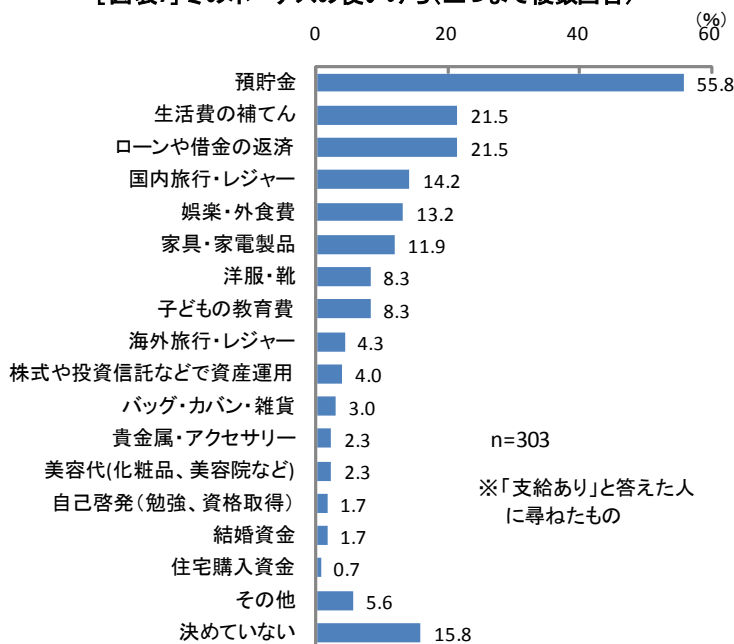
区分	上司	先輩	同僚	部下・後輩
合計	(184) 100.0	(191) 100.0	(217) 100.0	(182) 100.0
宛名もあいさつもすべて手書き	25.0	24.6	19.8	22.5
宛名は印刷しあいさつのみ手書き	46.7	45.5	44.2	43.4
宛名もあいさつも印刷し、手書きはしない	28.3	25.1	24.9	26.4
メールによるデジタル年賀状	2.7	7.3	13.8	9.9

3. まずは何より貯金します ～この冬のボーナスの使いみち [図表 7]

調査を行った 11 月下旬時点で、今冬のボーナス支給について尋ねたところ、「支給がある」が 71.3%、「支給はない」が 18.8%となり、1 割ほどが「まだ分からない」という回答だった。

このうち「支給がある」と答えた人に、いま考えている使いみちを三つまでの複数回答で聞いた結果、「預貯金」が 55.8%でトップ。これに「生活費の補てん」「ローンや借金の返済」がともに 21.5%で続いている[図表 7]。旅行・レジャーや、家電、身の回りの品物の購入などはいずれも 15%に満たない。使いみちが分散しているというよりは、いまと将来に必要なお金に優先してボーナスを充てようという意識が強いように見て取れる。

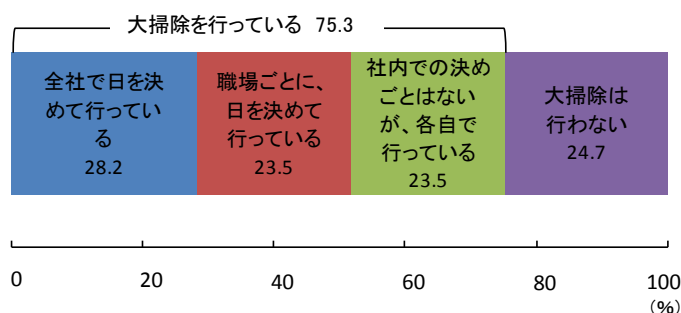
[図表 7] 冬のボーナスの使いみち(三つまで複数回答)



4. 年納めの大仕事(?) 大掃除はどのくらいやっている? ～ビジネスパーソンの大掃除 [図表 8~9]

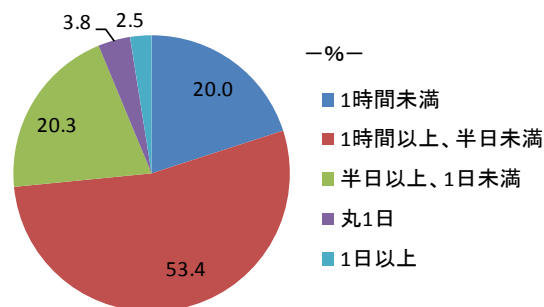
ビジネスパーソンの年中行事の一つが年納めの大掃除。勤務先で「大掃除を行っている」と答えた人は 75.3%と 4 分の 3 を占めた[図表 8]。会社で日を決めて大掃除をしているところは約 5 割に上り、全社で大掃除の日を決めているところが 28.2%、職場ごとに日を決めているところが 23.5%となっている。

[図表 8] 勤務先で大掃除を行っているか (n=425)



大掃除にかかる時間は「1 時間以上、半日未満」が 53.4% で最多【図表 9】。これに「1 時間未満」(20.0%)を合わせると、全体の 7 割強が半日以内で大掃除を済ませていることが分かる。「丸 1 日」「1 日以上」という“じっくり掃除”派は、合わせて 6%ほどと、さすがに少数にとどまっている。

【図表9】大掃除にどのくらい時間をかけているか (n=320)



本プレスリリースに関するお問い合わせ

労務行政研究所 ジンジュール編集部
 担当:原、前田、五林
 TEL: 03-3585-1300(直通)
 FAX: 03-3584-1698

【本調査項目の関連記事】

忘年会について <http://www.jinjour.jp/special/49111.html>
 年賀状について <http://www.jinjour.jp/special/49113.html>

■ジンジュールの概要 <http://www.jinjour.jp/>

労務行政研究所が編集する企業の人事担当者を対象とした人事・労務の専門情報誌『労政時報』の情報提供のノウハウをベースに、「jin-jour ジンジュール」は、“働く現場をもっと元気に！”というコンセプトの下、働くすべての人々に関心の高い、人と会社まつわるさまざまな情報を、月曜日から金曜日まで毎日更新する Web サイト (<http://www.jinjour.jp/>) で発信しています。



※本プレスリリースを記事として取り上げていただける際には、調査主体を「ジンジュール編集部」と表記ください

ジンジュールがこれまでに実施したアンケート一覧

- 1 上司・先輩からみた新入社員のイメージ調査 2010年7月
- 2 職場における上司の実像 2010年9月
- 3 ビジネスパーソンの冬のボーナス予想 2010年11月
- 4 ビジネスパーソンの健康事情 2011年1月
- 5 ビジネスパーソンの“資格取得”事情 2011年3月
- 6 ビジネスパーソンの東日本大震災に関するアンケート 2011年4月
- 7 節電時代における夏のオフィスファッションアンケート 2011年7月
- 8 ビジネスパーソンの体力・運動事情 2011年10月